

平成 27 年 7 月 4 日
大阪府教育委員会

かみがいといせき

上垣内遺跡現地公開資料

はじめに

大阪府教育委員会は主要地方道枚方富田林泉佐野線(都市計画道路梅が丘高柳線)建設に伴って、寝屋川市明和二丁目の上垣内遺跡の発掘調査を実施しています。前年度に引き続き、平成 27 年 4 月より約 800 m²を発掘調査しています。

上垣内遺跡は枚方台地の辺縁部に位置します。台地には、幾筋かの谷が形成されており周辺には、古墳時代前期の忍岡古墳、中期から後期にかけての太秦古墳群、飛鳥時代から奈良時代にかけては、石の宝殿古墳、高宮廃寺跡、太秦廃寺跡などの遺跡があります。また、遺跡の東側を東高野街道が南北に貫き、古代から北河内と南山城を結ぶ交通路としても栄えたと考えられます。

今回の調査地の谷を一つはさんだ北側の丘陵上に第二京阪道路が建設された際には、工事に先立って、太秦遺跡・太秦古墳群が調査されました。調査の結果、弥生時代中期の集落跡、古墳時代中期に営まれた古墳群、古墳時代後期の集落跡、奈良時代の集落跡が発見されています。

今回の調査では、古墳時代後期(6世紀後半ころ)の3棟の竪穴住居跡(たてあなじゅうきょあと)が発見されました。その他、奈良時代(8世紀)の掘立柱建物跡(ほったてばしらたてもものあと)なども発見されており、太秦遺跡や太秦古墳群との関連が考えられます。

調査成果

今回の調査区は、南北長さ約 10m、東西幅約 20m の A 区と、南北長さ約 25m、東西幅約 20m の B 区に分かれます。A 区の東側は昨年度、約 300 m²にわたって発掘調査しました。このとき、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の一部を確認しました。今回は昨年調査できなかった東側と南側を掘り広げて、これらの全容を明らかにしました。

A 区は中世以降の耕作などで北側が削平され、遺構の上面は良好に残されていませんでしたが、竪穴住居跡 3 棟と掘立柱建物跡 1 棟が残されていました。

西端の竪穴住居跡 A-1 は大きさ東西約 3.5m、南北 3 m 以上ですが、南端は後世に削られて残っていませんでした。住居は方形に 10cm 以上掘り下げられ、四周に壁溝(へきこう)を巡らせます。カマドの痕跡や柱穴(はしらあな)は明瞭に残されていません。

調査区南端の竪穴住居跡 A-2 は大きさ東西約 6.2m、南北 5 m 以上です。やはり南端は後世に削られて残っておらず、調査区外へと続きます。住居は方形に 20cm 以上掘り下げられ、四周に壁溝を巡らせます。北壁中央にカマドの痕跡が残り、4 本柱の柱穴だったと推定します。6 世紀後半の須恵器杯(すえきつき)・土師器(はじき)甕(かめ)などが発見されました。

昨年度調査で発見された竪穴住居跡 A-3 は大きさ東西約 5.0m、南北 3.6m です。住居は方形に 10cm 以上掘り下げられ、四周に壁溝を巡らせます。北壁にカマドの痕跡が残り、4 本柱の柱穴だったと推定します。土師器高杯などが発見されました。

掘立柱建物跡 A-1 は竪穴住居跡 B-2 のすぐ西側で発見されました。東西 8.0m、南北 4.8m、5 間×3 間を測る大型の東西棟です。上面から奈良時代の須恵器片が発見され

ています。

その他、発見された遺物に、縄文時代の打製石鏃(だせいせきぞく)、飛鳥時代と奈良時代の須恵器杯、平安時代の黒色土器、中国製の白磁碗(はくじわん)などがあります。

B 区は遺構面の大半が後世の建物造営などで削平され、良好に残されていませんでした。もっとも低い、南西隅で掘立柱建物跡の一部が発見されています。時期や規模はわかりません。

おわりに

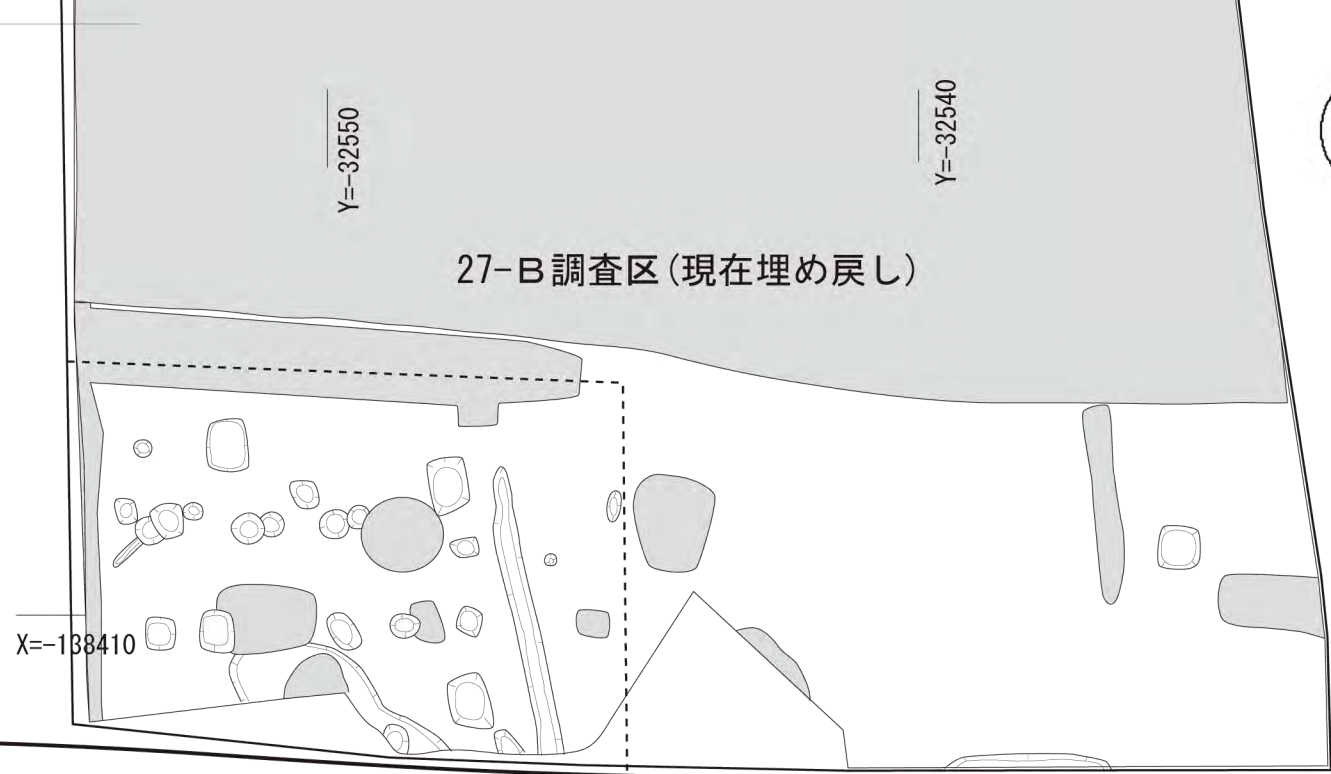
今回の調査によって、古墳時代後期(6世紀後半ころ)の集落の一端が解明されました。周辺には、太秦(うずまさ)・秦(はた)などの地名が残り、渡来系氏族との関連が指摘されています。今回の調査成果で、直接に渡来系氏族との関連をうかがわせる遺物は見つかりませんでした。今後の発掘調査によって、この地に暮らした古代の人々の営みが解明されることが期待されます。



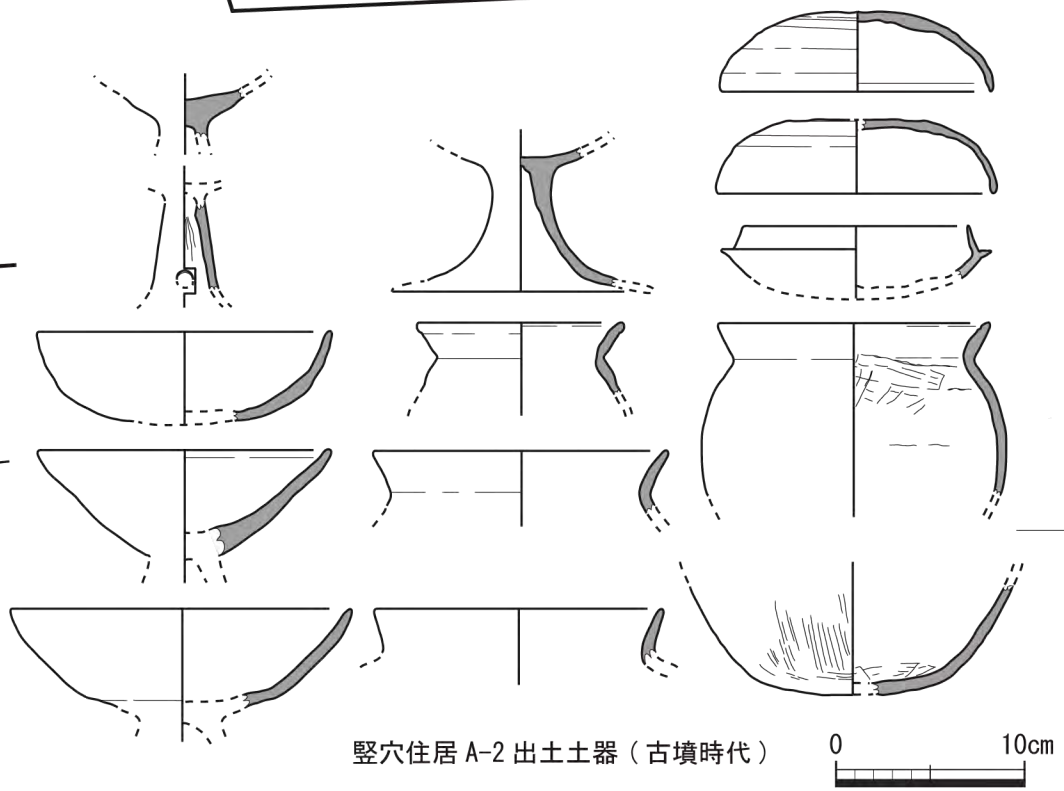
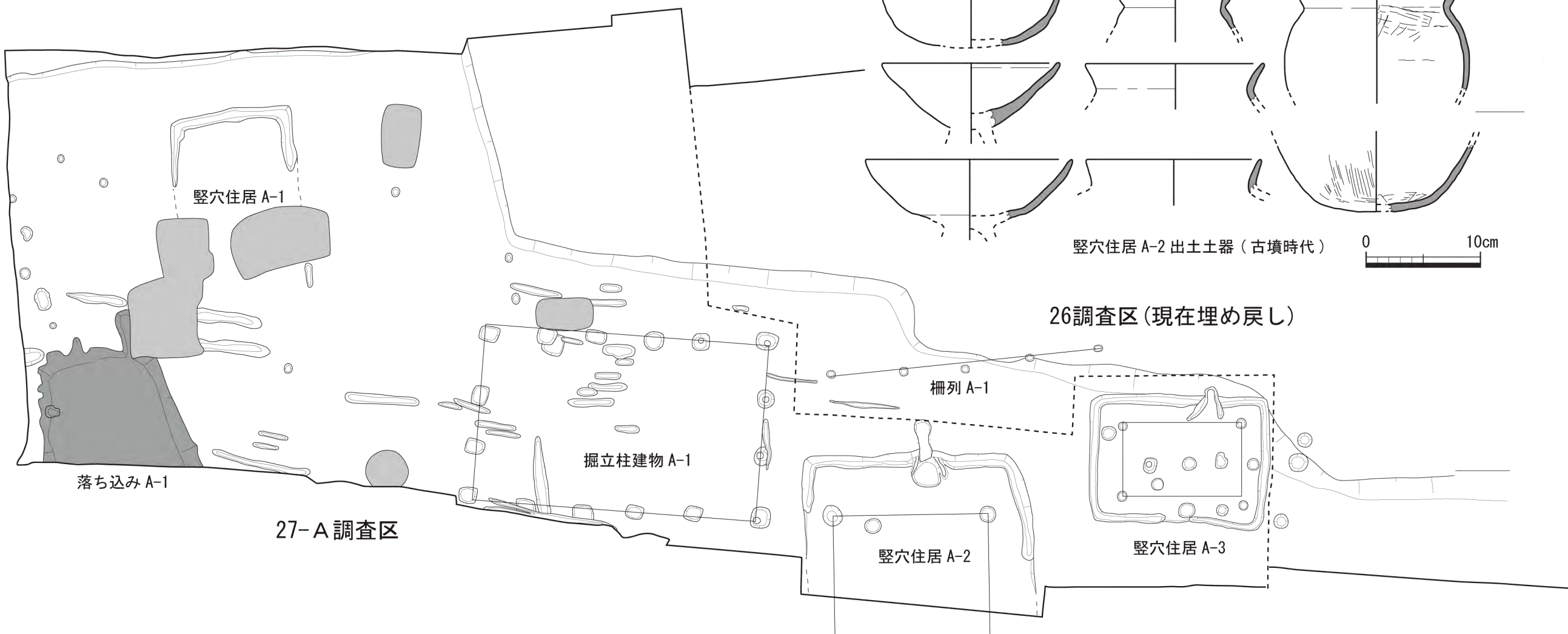
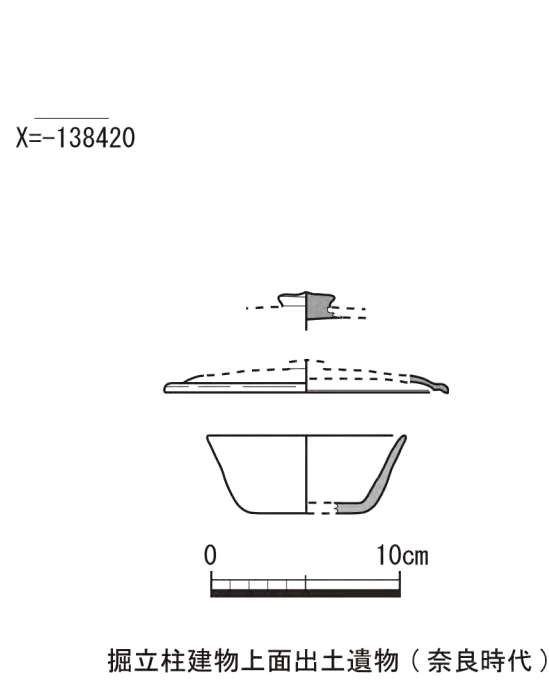
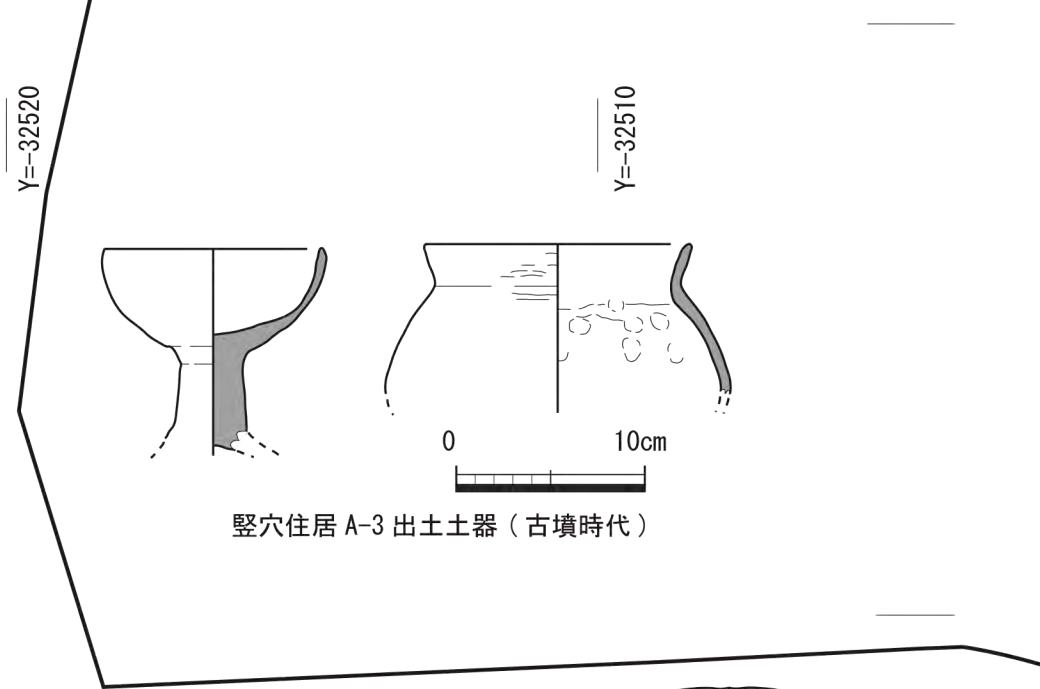
写真 1 A 調査区全景(東から)



写真 2 奥の竪穴住居跡 A-2 と手前の竪穴住居跡 A-3 (西から)



Y=-32530



26 調査区 (現在埋め戻し)

上垣内遺跡遺構図